

平成30年度第1回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 平成30年 5月29日(火)
◎開催日時 平成30年 6月19日(火) 午前10時～11時28分
◎場所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原教育長職務代理者、宮脇教育委員、田畑教育委員、原田教育委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 馬場教育次長、吉田学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、中村指導主事、北澤指導主事、山崎教育総務係長

1 開 会

馬場教育次長

定刻となりましたので、ただ今から伊那市総合教育会議を開催してまいります。本日11時半までの予定ということでお願いをしております。次の会議がありますのでご協力をお願いしたいと思います。それでは、初めに白鳥市長からごあいさつをお願いいたします。

2 市長あいさつ

白鳥市長

おはようございます。

今年の梅雨は空梅雨と言いますか、あまり雨の降らない状況ですが、それはそれで私たちにとってはありがたいんですが、農家のみなさんは非常に困っているという状況であります。

さて、是枝監督が大変な賞を取ったということで、話題になっておりますが、実は是枝監督のもののベースになっているのは伊那小にあるということで、伊那小学校を舞台とした作品「もうひとつの教育」を見ました。非常にいい視点で見られているなあということと、通知表がないという独特の教育、そうした教育の先にある子どもの成長、大変勉強になりました。そうしたことが本人の口からも、「自分の今は伊那にある。伊那小学校にある。」ということをおっしゃって、何とか伊那の方に呼んで、また、今の伊那小の状況を見ていただければと思っているところであります。

また、今日の会議でありますけれど、笠原教育長を交えての初めての総合教育会議になりますけれど、伊那市の教育、地域づくりは教育に基本がありますので、そうした視点のなかでは是非みなさま方の意見をいただくことをお願いしたいと思います。今、地方創生、盛んに国の方で旗を振ったりしておりますけれど、しょせん国でできることではないというのが私の考えです。地方の私たちが地方創生というものを作り上げていくということですので、そのためにも産業とか、芸術もちろんですが、一番は教育だと考えておりますので、この会議が非常に重要だということで議論を進めていただければと思います。

後ほどキャリア教育の参加状況等があるわけですが、キャリアフェスも大変重要な伊那市らしい取り組みだろうと思っておりますので、ぜひ協力をいただくことをお願い申し

上げたいと思います。

馬場教育次長

ありがとうございました。続きまして、笠原教育長からお願いいたします。

3 教育長あいさつ

笠原教育長

おはようございます。松田前教育委員長、また、北原前教育長からずっしりと重い、また、想いのこもったバトン、あるいは、たすきを受け継いでひと月が経ちました。その間、臨時、定例の教育委員会、現在開会中でありますけれど、6月の議会、緊張の中、白鳥市長の見守りをいただいて、委員のみなさん、市のスタッフのみなさん、気持ちと言葉を重ねながら、当面する基本理念に関わる諸課題に関わってきたなあと、そんなふうに思い返してきております。

今、お話しいただきましたように今年度初めての総合教育会議でございます。教育委員会が担う範囲は広いわけでありますけれど、子どもたち、また、市民のみなさまの学びに関わって様々な取り組みに関わる、例えば、教育行政の大綱、また、重点施策、更には、教職員や担当スタッフについて等々、運用面についての市長のお考えをお聞きし、教育委員会からもお考え、思いなどを出ささせていただいて、市長部局と教育委員会、また、事務局が一層の連携を深めて、「歴史と文化を大切にした人を育むまちづくり」の具現化に向けた機会にしたい、そのように思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

馬場教育次長

それでは、協議事項に入ります。進行は白鳥市長にお願いいたします。

4 協議事項

(1) 教育委員会の職務権限の一部移管について

白鳥市長

それでは、(1) 教育委員会の職務権限の一部移管についてということで、議題にいたします。

資料説明は、事務局からお願いしますが、この件については、前々からいろんな議論があるところでしたけれども、伊那市の教育については、観光的なもの、あるいは、スポーツのいろんなイベント、そちらの方をかなり負っている状況があります。それを切り離して、教育、あるいは、社会教育、そちらの方に軸足を置いた教育委員会であるべきかなあということ、みなさんからご意見をいただいて、方向を探ってみたいと思います。

一つの提案としまして、文化・スポーツ、例えば、春の高校伊那駅伝、教育委員会が主管しているんですが、大変な事業でもあります。全国からいろんなみなさんが集まって、生徒のみなさんだけでなく、最近では保護者のみなさんや応援団のみなさんが大挙して押し寄せるといようなことがあって、スポーツ振興課というより本来であれば違う部署で担えるのではと感じられているところかと思えます。そうしたところを1回整理をして、文化とスポーツについては、市長部局の方でさせていただく

ことの協議事項であります。

詳細については、担当の方で説明してください。

馬場教育次長

「資料No.1」に基づき説明

白鳥市長

初めてお聞きになった委員のみなさんもいらっしゃると思うんですけど、こうした協議事項の提案についてご意見をいただきたいと思います。

白鳥市長

議会の方には、今後の教育委員会の論議をして、全体の流れとしては、議論をしていただいて方向が出れば、早ければ来年の4月から。

馬場教育次長

そうですね。協議の内容にもよってくると思うんですが、今の時期からですと、来年の4月からというのが一番早いスケジュールです。

白鳥市長

早くて来年の4月、遅ければ再来年の4月ですね。どうでしょう。このスポーツ、文化。生涯学習については、社会教育になるので、生涯学習については、教育委員会に残したいという考えであります。みなさんの意見を聞きたいと思います。

北原教育長職務代理者

今、全体としてはこういう流れになっているんですけど、割と大きな都市、全国的にもこういった動きが出ているなあと思います。一方で内容的には、今の話のなかにもあったんですけど、例えば、観光面とか健康面を考えてみると、かなり、市長部局で執行することが望ましいものもあると思います。一方では生涯学習、また、文化面でも、学校現場を含めて子どもたちの育ち、市民の生涯を考えた時には、検討しなければならないものがあるかなと思います。今、市長が生涯学習について言われたんですけど、いずれかまたはすべてと言われているんですけど、もう少し精査しながら検討していくことが必要かなと思っています。

田畑教育委員

この法律改正の経過の趣旨は受け止められるんですけど、具体的にこれをやることによってスピード感や事故対応みたいなものが、今よりよくなることはどんなことが想定されるんでしょうか。

白鳥市長

先ほど話をしたんですけど、教育委員会が全面主管しているものとか、大学ラグビーとか、ソフトボールの大会とか、全国規模の大会も本来であればそうしたものは別の部署がやって、教育委員会は義務教育とか、そうした方を主にしてやっていくべきではないかと、守備範囲がかなり広がってしまっているのが事実だと思うんですね。そうしたところを考えて線引きしていくということで、ほかにもいっぱい出

てくると思うんですね。

田畑教育委員

やるのが非常に盛りだくさんなので、整理してもらえれば集中になるということも理解できる。

白鳥市長

今、やってもらっている「暮らしのなかの食」だとか、キャリア教育とか、ICT教育とか、これからの子どもたちの学習環境が大きく変わってくるので、そこにお金もパワーも入れ込んでやってもらって、イベント的なものについては別のところでやってもらう方がいいんじゃないかということも思うんですね。

宮脇教育委員

多分そういう流れでいいんじゃないかと思います。実際、教育長さんも激務になってくると思うんですね。ある程度切り離して集中できる環境があった方が、教育委員会として充実するかなあとと思います。今もイベント関係は教育委員会で素通りというところがあるので、整理した方が教育に突っ込めるかなという気がします。

原田教育委員

文化というところを考えると、社会教育施設、図書館とか博物館とか、公民館の運営が難しいと思っていて、そういう運営を考えても教育委員会と連携しながら専門的にやっていける部署が必要かなとは思っております。

白鳥市長

どうでしょう。ほかにもいろんな意見を出していただきたいと思います。今日は結論が出るということではないので、まずはご意見をいただいて、今後流れに沿っているみなさんのご意見をいただく。

宮脇教育委員

ひとつ、いっぱいやっていていいことは、教育委員の視野が広がるんですね。学校教育だけでなくいろんなことをやっているの、ほかのことにも目が行くので、教育委員としては視野が広がっていいんですけど、あまり、学校教育だけに行っちゃうのはどうかなと思うんですけど、それは別の問題として、組織はこういう形で整理した方がいいかなという気はしています。

松本の方とも話をしたんですけど、切り離してしまうとどうしても学校教育だけの話になっちゃうので、教育委員の視野では今の状態はいいなと思っています。

白鳥市長

もしそうなったとしてもどんどん顔を出してもらえばいい。

宮脇教育委員

そんな形で参加すればいいと思います。

白鳥市長

例えばこの間の大相撲伊那場所って教育委員会なんでしたっけ。

馬場教育次長
信毎が主催です。

白鳥市長
伊那市が後援していたんですか。

宮下スポーツ振興課長
後援です。

白鳥市長
後援で教育委員会、伊那市がしたの。

宮下スポーツ振興課長
担当課は私どもがやりました。

白鳥市長
大相撲も教育委員会か。

宮下スポーツ振興課長
まあ、体育館を使っていたというのが、一番主になります。

北原教育長職務代理者

先ほどの宮脇委員さんの視野の話なんですけれど、昨年「わたしたちのふるさと」を作りましたよね。その中に歴史も文化も産業もスポーツもあって、ですから基本的にはベースはある。先ほど連携という言葉も出ていましたので、どこを切り離したりどこに線引きをしても、連携はしていかないとならないと思うんですね。そうしたうえで、子どもたちや市民のみなさんの育ちだとか成長につながってくるので、時間をかけて、時間をかけてと言っても本年度ということになればその中で、整理を十分したいなあということは思います。

白鳥市長

さっき線引きをという話をしたんですけれど、現実的には私たちは、市民のため、あるいは子どもたちのための仕事をしているので、線引きというのはファジーなところがあって、行ったり来たりというあいまいな何となくというところがあるので、そこら辺は、伊那市のため、子どもたちのため、市民のためということでやってもらえれば、ここからこっちはやりませんということではなくしていかないといけないと思います。

ほかはどうでしょうか。

白鳥市長

メンバーで次回話をしてもらったり、また、実際に部会的なところで上げてもらおうと、よりクリアな線が出てくると思うので、そこら辺を提案してもらって意見を聞く

ということで進めていってください。

馬場教育次長

はい、わかりました。

(2) 平成30年度伊那市教育委員会運営方針について

白鳥市長

次に、「(2) 平成30年度伊那市教育委員会運営方針について」をお願いします。

資料NO. 2に基づき、笠原教育長、馬場教育次長、担当課長説明

白鳥市長

今、担当の方から話をしてもらったわけですが、やっているものを列記してもらいました。小さいところはいろいろとあると思うんですが、こういうことで30年度をやっていきますということなんですが、部活動の指導員はどんな状況なんですか。次の、先生たちの超過勤務が減ってきているというような効果が出ているかどうかを含めて。

吉田学校教育課長

部活動指導員につきましては、今年度新たに実施したというものでありまして、伊那市を含め県内7市で取り組んでいる状況でありまして、部活動指導員を入れることによって先生方の意識改革につながっているかなと見ております。

白鳥市長

どういうみなさんが来ているの。

吉田学校教育課長

地域型スポーツクラブで指導されている方とか、先生のOBの方にやっていただいている状況であります。

白鳥市長

そうした人に全部まかせっきりになっているわけじゃないよね。

吉田学校教育課長

はい、先生が指導をして、先生の負担軽減の部分をやっていただいています。

白鳥市長

はい。老松場の方なんだけど、今年、2年目。

小松生涯学習課長

2年目です。

白鳥市長

1年目の報告は出ているの。

小松生涯学習課長
出しています。

白鳥市長
そういうものも地域のみなさんも知りたいと思うので、報告会のようなもので。

小松生涯学習課長
9月に報告会もしております、地域のみなさんも集まっています。

白鳥市長
文化振興で、伊那谷環境ライブラリーの活用、これが止まっている。収集もできて整理もできているので、これの活用してというところが見えていないので、図書館長に考えて実施するように言っておいてください。

向山雅重さんの野帳もコピーを取ってあると思うんだけど、研究が進んでいないんだよね。

捧文化振興課長
今度宮田村と調整しますが、宮田村がどう考えているか、こちらに何ができるか考えて進めております。

白鳥市長
宮田村はあまり考えていないと思うんだなあ。一番は宮田村が大元なので、民俗学の大家としての向山雅重、この人はきちんと研究して残すべきだと思うんだよね。
伊那市誌の編纂はもちろんなんだけど、向山雅重にも力を入れてもらいたい。

捧文化振興課長
はい。

白鳥市長
東ティモールはその後動きはないね。

宮下スポーツ振興課長
具体的にはないです。国が正常化されていないということがあって、そろそろ国民議会が終わって結果が出て政権が決まると思いますので、それからを考えています。

白鳥市長
もう決まっているよ。

宮下スポーツ振興課長
こちらからアクションを起こしていないのでいけないんですが、北原大使と連絡を取って進めていきたいとします。

白鳥市長

そうだね。大野市も動いているよね。大野市の市長も変わったのかな、そこら辺を情報収集しながら、北原大使に今後の進め方を教えてもらって、もう2年後の話だからね。今から準備しないと間に合わなくなっちゃうし。どんなスポーツで参加するかもわからないしね。

宮下スポーツ振興課長

そこなんですよね。

白鳥市長

情報収集に努めてください。

宮下スポーツ振興課長

はい。

白鳥市長

どうですか、みなさんの方から。

宮脇教育委員

一番最初の「はじめに子どもありき」の理念のところ、
「自分の学ぶ力に対する自信」という言葉が出てくるんですけど、実は最初に市長も言っておりましたけれど、伊那小春組のその後の大人になってからのインタビュー記事を市長もお読みになったかと思うんですけど、30代になった二人がインタビューを受けている記事がありまして、今、手元になんですけど、北原先生にいただいたかと思うんですが、その一人女性で医者になっている人がいたんですけど、そのなかで「自分の生き方に自信を持っています。」と言い切っている部分があって、伊那小でそうした教育をしたことによって、その子たちが自己肯定感を持った記事、今、手元になくていけないんですが、多分、こういう考え方で進めていくということで非常にいいことかなと思います。

白鳥市長

以前も話をしたことがあると思うんですが、伊那小の総合学習はみなさん、いい、いいと思うんですけど、観念的という話ではなくて、その後の就職とかをトレースしてみて、よその教育と比べてどういう違いがあって、自己肯定感はもちろんなんですけど、人生の中でいいことがあるということが見えればね、今後の課題かなあと思うけどね。

宮脇教育委員

さっきのインタビュー記事も自宅にありますのでお届けします。お医者さんになった方と、学校の教員になった女性と、春組の牛を育てた子たちも30代後半になっています。

白鳥市長

優秀な子どもたちだね。

宮脇教育委員

たまたまです。

原田教育委員

優秀な子たちだけでなく、全体的に見たいと思います。

白鳥市長

そう、わざわざ伊那小の教育を受けさせたいと、毎年、移住して来る人がいるからね。そういうみなさんが実際に預けてみて、卒業して成長していく中で、「こういうことがよかったね。」と、本人たちもさることながら、保護者の中にも何人かアンケートを取ってみるとかどうかなと思います。

宮脇教育委員

ちなみにうちらは伊那小の卒業生を何十年もモニターしていますので、まあまあいい子に育っています。

全委員（笑）

宮脇教育委員

友達にも伊那に帰ってくる子が多くいます。

原田教育委員

郷土感はありますね。

白鳥市長

まあ、いいことだよね。

宮脇教育委員

一度整理ができればいいですね。

白鳥市長

明確な答えが出ないにしても、検証してみる取り組みはすべきではないかと思うんだよね。例えば、職業観にしても普通のサラリーマンになっていくのは、当たり前のように考えられているけれど、手に職を持つとか料理の道に入るとか、あるいは、大工さんの道に入るとか、そういう職業別の結果も具体的に見られるんじゃないか。牛を飼っていた子どもたちで酪農したりとか、獣医になったりとかいたかもしれないし、すぐじゃないにしても、もう30年、40年経っているからね。

宮脇教育委員

春組から30年ですね。

白鳥市長

宮下君はどこだっけ。

宮下スポーツ振興課長

私は、伊那東小。

田畑教育委員

私は、伊那小星組でした。

白鳥市長

教育委員は、3人伊那小なんだ。

宮脇教育委員

子どもが伊那小、原田さんも出身は東京です。

原田教育委員

主人は伊那小の出身で、ちょうど総合学習が始まったころの学年で38年生まれ、55歳になります。

宮脇教育委員

キャリアフェスもNCC、ご主人さん参加していただけます。

白鳥市長

このことも今後トレースできる範囲で、どんなことができるか考えてもらってお願いします。

ほか、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

田畑教育委員

人口減少の問題で、別に教育委員会だけではないんですけど、どういうふうに次世代の子どもたちに伝えていくか、伝え方も難しいと思うんですけど、子どもに限らず意識してもらって発信をできる場所として、教育委員会がどんな役割を果たせるか、機会をとらえて、余談になってしまうんですが、今年4月の入学式の時に伊那小にいったんですね、久しぶりに校歌を歌って、それこそ滲みついている校歌の3番に、「ともがき二千」という歌詞が出てくるんですよ。そういえば、自分たちのころは45人学級で7クラスか8クラスあって、千数百人がいたなあを歌ったんですけど、今、現状で600人の子どもたちが「ともがき二千」って、残っている歌詞を理解しているのかなあと思ってしまって、「いや、減少の幅がものすごいですね。」とある幼稚園の理事にしたんです。そうしたら、80を超える理事者のおかあさんがいらっしゃって、「田畑さん、ショックを受けているかも知れないけれど、私はもっとショックなのよ。」「何ですか。」「言ったら、「わたしたちの時の校歌は『ともがき四千』だった。」「ええー、4,000人だったんですか。」「言ったら、「分校もあったので、伊那小学校って大所帯だった。」「っておっしゃったんですけど、正直、この話を私たちと同世代か若い世代にお話すると、驚愕ですよ。」「そんな現実があるの。」「って、もっと言うと、去年生まれた数って、新成人に「何人だ。」と思うと聞いた時に、「500人切っているんだよ。」ということ、現実的に受け止められない親御さんもいる現状なのに、どこからも発信されていないし、キャリアフェスの

なかで出てくる話かもしれませんが、伊那市の子どもたちが一堂に会して、自分たちの人数を見てどう思うのか、650人が自分たちの世代だと感じてもらうところから始まるのかもしれないですけど、わかっている数字、発表された数字で、50歳の私たちの世代は1,000人ちょっと切っているんですけど、そもそも私たちが生まれた時には、何人で生まれていて、今、伊那市に残っている人数って何人なのか、比較対照できる数字を市として持っているのであれば、そういったものってどこかにアクセスするとみんなが引き出せて、それぞれに人口減少問題を現役世代の私たちに對する教育資材として提供することができていくと、今後の20年30年先の伊那市の姿をリアルに想像できる教材になるのかなあと、いい悪いは置いておいて、批判的に考えるとか肯定的に考えるとかの判断は置いておいて、実数を責任を持って出せるというのは、教育委員会でやるべき部分なのか、そうでないところにお任せするのかというところを思うところがありまして、どう地域課題を教育の現場に入れていくか、この中に盛り込むかは別の問題だと思うんですけど、考えておく必要があるのではないかと常々思っています。

白鳥市長

この前、前の市長の小阪さんがね、「俺たちの時は4,000だったぞ。」というので、「それは違うでしょう。」と言ったら、「校歌にあるよ。」って言って、びっくりした。それが、今、こういう状態になっているんだけど、人口問題については、大事なところなんですけれど、時間がないので、また、何らかの形で話ができるようにしていきたいと思うんですが、ただ、ひとつ言えることは、今の時代の変化の中で、職業は大きく変わってくるということですね。今ある職業が半分くらいなくなるんじゃないかと言う人もいますし、そうしたときにこれから自分が生きていくなかでどんな職業観を持つのか、非常に混沌とした時代に入ったので、そこで、選択肢を間違えると本人にとっても、家族にとっても大変なことになっちゃう。これについては、別途、いろんな場面で話をしたりしたいと思います。私が人口問題について言うと、伊那に転入する人が増えてきているというのは事実だし、そのきっかけになっているのは、さっきの学校の教育でもあるし、保育園の「山ほいく」で来ている人もいるし、農業をやりたい、林業をやりたいという人が来ているものもある。これからの職業観、仕事も林業とか、農業は大変重要な産業なので、こうしたところから魅力を発信して引き付けることもできると思う。こういう子どもたちが増えていくことは、世代を繰り返してきた結果ではないにしろ、外から入ってくることも考えていくべきではないかという気がします。

別の機会にさせていただきまして、次に「教職員の働き方改革」をお願いします。

(3) 教職員の働き方改革の取り組みについて

資料NO. 3に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

このグラフ化した数字を見ると、学校によって差があるということ、それから、タイムカードの導入によって効果が出ている。タイムカードを導入したところ、高遠中、伊那東小、伊那中、西箕輪小は大幅に減ってきている。西春近北小、伊那北小、東部中学校は横ばいという感じですので、効果は出ているという感じがいたしますので、

そうしたことも今後の導入の検討だとかも必要だろうと、それから会議なんかも民間では1時間以内だとしておりますので、学校の会議の時間もわかりませんが、ひとつの目標を立てて1時間以内に会議をしましょうと、資料をきちんと作ってきて、それもA4、1枚にまとめて会議をしていくというようなことが日常化すれば、資料作りにかかる時間、会議の進め方も大分変わってくると思いますので、従来の踏襲で学校を運営していくということは、必ずしもいいことではなくて、変えるところは変えるということも必要だと思います。

今の説明ですけれどもどうでしょうか。現場にいた先生方。

笠原教育長

これはそれぞれ頑張ってきているんですね。そういう中で具体的な成果が上がってきている。非常に手ごたえがある。今、市長が会議は1時間以内とおっしゃったんですけれど、私、かつてPTAのみなさんの会議に1時間にしましょうと言ってしたことがあった。これは、個人的な経験ですけれど、そうしたらどうなったかと言うと、開始時間に遅れる方がなくなりました。みなさん時間に都合をつけ来てくださる。本当に1時間以内に終わると話の質がうんと高くなる。それから具体的な成果が出てくることで次の成果が出てくる。ささやかに経験したことがあります。やはり、取り組みどころはまだあると思いますし、各学校一生懸命取り組んでくれていますので、ここからさらに成果につながっていけばいいなあと思います。

北原教育長職務代理者

タイムカードの導入のリザーブのところなんですけれど、例えば、東部中は横ばいとありますけれど、これはもう5年も前からやっているのです、こういう結果になっている。伊那北、西春近北はいつだったでしょうか。

吉田学校教育課長

伊那北が3年前、西春近北が4月に導入になります。

北原教育長職務代理者

そうした視点で見ていくことが大事かなあということがひとつと、伊那中で7時以降の電話には出ないようにしていると、これは今後の働き方改革の中で大事なところで、教育委員会の中で話題にしたところなんですけれども、伊那市として一定時間以降の電話には出ない、基本的に留守番電話対応ということが、長期休業中の学校完全閉庁についても、保護者のみなさんにもご理解をいただいたりしていくかなあと思います。いずれにしても緊急時には即やらなければいけませんので、そういうこととの違いをみなさんにご理解していただくことが大事かなあというふうに思います。

白鳥市長

今、いろいろと聞くなかでも見えてきていると思うので、時間外の電話に出ないとか、タイムカードのこともあるでしょうし、少し気になるのは、モンスターペアレント、この人たちの対応にもものすごく時間を取られちゃうと思うんですね。専門の人を充ててしまうということもあるだろうし、部活のことについては、補助員ができて徐々に改善に向けてきていると、もうひとつは「こうしたらいいんじゃないの。」ということを先生から出していただくと、より現場の対応が具体的になるのかなと思うんだ

けれど、各学校の主任の方と言うのかな、小中学校別でも、こういうことをすればいいということを教育委員会と一緒に話をする。先生たちってしょっちゅう学校にいるというイメージなんだね、みな、地域もあって、家庭もあるので、ずっと学校にすることが決していいことではないというか、そうした意識を持つべきではないかと思うんですね。ノー残業デーみたいな日でもいいだろうし、もう少し深く研究、検討して、実行に移るようにしてほしい。先生方に意見を出してもらうこともひとつだと思う。

指導主事のみなさん、どうですか。

中村指導主事

今年度から「働き方改革推進委員会」を立ち上げまして、校長、教頭5～6人のメンバーに集まってもらって、各校の情報交換であるとか、今後できることを話し合うとか、検討を進めていきます。

北原教育長職務代理者

学校からの苦情ですけれども、北澤先生が主に受けているんですけど、頻度とか、説明してください。

北澤指導主事

働き方改革と絡めて言うと、現場はこの「働き方改革」もやらされている感が強い。ですから、市長さんが言われたように現場の声を聞くというところが出発になると現場はありがたいと思う。「早く帰れ、早く帰れ。」が解決ではない。もう少し言うともう少しダイナミックな働き方改革をしていかないと変わらない、多分、クレームのこともそうなんだけれど、例えば、伊那市の家庭教育がどうなっているんだ、というところから始めないと、いろいろ言ってくる親の考えが変わらないと思います。個々の親にはいろいろな方がいますので、私の方でなるべく丁寧に対応しているところですけども、働き方改革について、教師のやらされ感をなくしてやることと、もう少し大きく考えて、部活にしてもこんなに出てくるので、あれを排除するとかしていかないと、なかなか働き方改革にはつながらないと感じます。

白鳥市長

さっき触れた先生方からの声を、校長先生、教頭先生より、むしろ実際に授業を持っている先生たちのアイデア、考えを引き出すことが大事だと思うので、どんな方法がいいのか、担当で検討してください。これは、早ければ早いほどいいので、全部項目が明確になってからやりましょうというのではなくて、ひとつでも効果があると思えるものはどんどんやっていって、現状との比較が進むようにしてください。

では、これも今後、引き続きお願いします。

次に、(4) キャリアフェスの取り組み状況について、お願いします。

(4) キャリアフェスの取り組み状況について

資料NO. 4に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

参加者について、昨年の参加者には声掛けはしているの。

吉田学校教育課長

はい、全事業所に声掛けさせていただいています。

白鳥市長

どうでしょうか。みなさん、ご意見をいただければと思います。

白鳥市長

保護者はどうなの。

吉田学校教育課長

今後、どういうふうに保護者のみなさんに声掛けしていくか、検討しているところですが、できるだけ多くのみなさんに参加いただけるよう考えていきたいと思っています。

白鳥市長

子どもたちだけでもわんわんしちゃうよね。

吉田学校教育課長

今のところ、事業所と生徒を合わせて1,000人くらいを見込んでいますので、そこに保護者の方がどのくらいになるのか、そこは要検討かなと思います。

白鳥市長

例えば、PTAの役員のみなさんに来ていただいて、その情報を戻してもらおうとか、保護者の方にどうぞって言ってわあーと来たら大変なことになっちゃう気もするんだよね。ちょっとその辺検討してみようよ。保護者に知ってもらいたいんだよね。保護者が一番知らないんだよ。伊那にどんな仕事、職場があるのかって。そこら辺を保護者のみなさんに知ってもらいたいということがあるよね。

どうでしょうか。特に田畑さん、中心にやってもらって。

田畑教育委員

説明会に同席させていただいて、一部参加企業のみなさんにお声掛けしています。企業だとビジネスフェアみたいなものをイメージされるケースが多いんですけど、今回一番大きな趣旨は、行った先にこんな人がいたと、人が大きなテーマでありますけれど、「未来につなげる一つの出会い」が子どもたちの願いですので、キーワードとして絡んでいただいて、できれば一人で俳優活動をしているとか、仕事の傍らこんな趣味を持っているとか、一芸に秀でていたりとか、ひとりでブースを出すほどでもないんだけど、子どもたちと関わり合いたいという、中学生の今のことばを受け止めたいという大人たちが今は、ヒューマンブースへ山小屋の管理人の宮下さんしか登録がありませんが、企業体ではないんだけど、地域に貢献したいという人に、お一人おひとりお声掛けして、呼びかけしながら、子どもたちに呼びかけていただきたいと思いました。おそらく、650人集まれば、ブースに張り付く子もいれば、そうじゃないところで退避している子も出てくると思うので、そこにひとりの大人として勇気

をもって働きかけてもらって、有意義な時間にしてもらいたいなあということで、お声掛けしておりますので、そういった人たちを含めて、人数を取りまとめます。

白鳥市長

全然頭になかったけれど、俳優とかそうだよ。伊那市のふるさと大使とか、そんなところで参加してもらえれば、それもひとつの職業だよ。音楽家みたいな人とか。ほかにどうでしょうか。

白鳥市長

続いて、ICT教育の取り組み状況についてお願いします。

(5) ICT教育の取り組み状況について

資料NO. 5に基づき、吉田学校教育課長説明

白鳥市長

ICT教育の取り組みに実際に関わりを持っている方はいましたっけ。

吉田学校教育課長

ここにはいません。

白鳥市長

今の説明ですけれど、課題もまだあります。ご意見をいただければと思いますが、どうでしょうか。

田畑教育委員

学校訪問の授業参観に伺う機会があるんですけど、授業展開の中で、機器を有効活用している場面がありまして、若い先生、年配の先生に限らず教科書を拡大して見せてあげたりとか、非常にわかりやすく使われている場面に出くわしていますので、一定の浸透と活用度合いは先生方に広がっていると感想を持っています。

白鳥市長

ほかどうでしょうか。

北原教育長職務代理者

私も訪問させていただいてそう思うんですが、中学生の感想の中に「授業の前から電子黒板の準備をしてほしい」とあるんですが、多くの学校では朝から電源を投入していつでもできるように用意をしているのかなあと思うんです。確認したいのは、電気代は影響があるのかということです。

吉田学校教育課長

大丈夫です。

北原教育長職務代理者

そうすれば、そういう使い方をすれば、いつでもどこでも使えるという形ですので。

白鳥市長

遮光カーテンが欲しいというのは工夫をしないとまずいよね。

吉田学校教育課長

実は全部の学校に入れたんですが、新山小学校が「うちの学校はいいです。」と校長先生に断られて、実は遮光カーテンが必要だったということです。

白鳥市長

手配してあるんだね。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

画質をよくしてほしいとあるけれど、画質が悪いはずがないんだけど。

吉田学校教育課長

確認してみますが、ピントがずれているのではないかと思います。

白鳥市長

どうでしょうか。ご意見をいただければと思います。

白鳥市長

課題としては、新しい先生が赴任してきたときに、触ったことがない人だとそこで戸惑って、生徒たちは当然のように使ってきているので、授業につまづいてしまうということになりがちなので、初めての先生にサポートしてあげるような、あるいは、ICT機器を使えるような講習の場を作るとか、そこら辺は力を入れてもらった方がいいね。人事異動の通知が出ればどこに行くか大体わかるので、その先生はあらかじめ来て勉強してもらおうとか、授業が始まったら「先生、何もできないじゃん。」っていうんじゃ、先生の評価がぐんと落ちた状態から始まってしまうと、先生にとってもつらいと思うんだよ。「自分たちはできるのに、先生できないじゃん。」っていうことのないようにあらかじめレベルを上げておいてもらって。現場では、指導者が足りないということはないのかね。

吉田学校教育課長

現状で、いっぱいいっぱいなので、今後不足してくるかなと考えています。

白鳥市長

それも工夫した方がいいね。民間でもいるだろうし、そうした人に入ってもらってサポートしてもらおうとか、あるいは、導入したメーカーからそうした人を派遣してもらおうとか、使いこなせるような工夫と努力はしていただきたいと思います。

ほかはどうでしょうか。このICTに関しては。

全委員（なし）

白鳥市長

なければ、協議事項については以上でありますけれど、ほかに委員さん方からテーマとして挙げてもらうものがあれば。

馬場教育次長

昨日の大阪の地震がありまして、ブロック塀が問題になっております。現状を調査しておりますが、今の状況を説明させていただきます。

吉田学校教育課長

学校関係でありますけれど、教育委員会で把握している中では、小中学校にブロック塀はないということでもあります。漏れがあるといけないので、確認を取っているところでもあります。

白鳥市長

通学路は。

吉田学校教育課長

通学路については、危険個所の調査を行っておりまして、今、取りまとめているところですが、ブロック塀が安全なブロック塀か危険なブロック塀か、通学路のブロック塀の有無を調べることで自体すごい量になるので、これからどうしようか検討しているところです。

白鳥市長

P T Aのみなさんをお願いして歩いてもらって、チェック表だけ渡してね、お願いしますと、子どもの安全のことなので、親御さんたちだって把握したいんじゃないかな。自分たちが全部やらなくてもいいので、チェックリストを作って、学校に渡して、P T Aのみなさんに一斉に点検してくれと、職員も一緒に入ったっていいし、建築基準にあっているかどうかわからないというのも、工夫していけばいい。

吉田学校教育課長

場所の確認をする必要があるなので、取り組みをしていきます。

白鳥市長

地図を渡して、これに落とすしてくれでいいので。

吉田学校教育課長

はい。

白鳥市長

学校の周辺にはないということだね。

吉田学校教育課長

学校の施設としてはないということです。

宮下スポーツ振興課長

スポーツ施設には該当がありまして、市民プールの北側のブロック塀です。何年でできて、どういう経過かというのは正直わからないんですけど、かなり高い塀でありますので、調べたいと思います。

白鳥市長

耐震化の設計士、建築士のみなさんならわかると思うけど、ブロック塀に鉄筋が入っているかどうかは調べようがあるのかい。

宮下スポーツ振興課長

かなり古いものですし、建築に聞いてみます。控え壁もあるにはあるんですけど、十分なかどうかははっきりわからないところです。点検はすぐしたいと思います。

白鳥市長

はい。

田畑教育委員

伊那小学校の坂下神社のところは全部ブロック塀じゃありませんでしたっけ。

白鳥市長

あそこを通るの。

吉田学校教育課長

通学路になっています。

田畑教育委員

壁の横を通ります。

白鳥市長

すぐに点検してもらって、巡視するとか、スケジュールを立ててもらった方がいいね。

捧文化振興課長

文化振興課で所管している文化施設の中にはブロック塀はありません。

白鳥市長

高遠美術館の北側のトイレはどうだっけ。

捧文化振興課長

あれは、コンクリート造です。

小松生涯学習課長

生涯学習についても、調査しておりますが、今のところありません。

白鳥市長

そこら辺の情報も庁内に流してね。

馬場教育次長

はい、わかりました。

白鳥市長

緊急点検した結果については、通学路を含めて情報を流してね。

馬場教育次長

はい、わかりました。

白鳥市長

ほかにありますでしょうか。

では、時間前ではありますが、以上で終了とさせていただきます。

ありがとうございました。